



DA 1851

2018年度
ロジスティクス大賞
応募のご案内



応募受付締切日／
2018年4月13日(金)

ロジスティクス大賞の概要



ロジスティクス大賞とは

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、ロジスティクス推進に向けて、顕著な努力と優れた実績をあげたと認められる企業、機関、団体を表彰する「ロジスティクス大賞」を設けております。

また、優れた実績、成果を顕彰し、ロジスティクスの社会的浸透と、ロジスティクス部門および関係者の意識高揚を図ることを目的としております。

応募のおすすめ

企業活動におけるロジスティクスは、調達、生産、販売、輸配送、回収、再生にいたる過程を、部門や個別企業における部分最適を超えて企業間連携による全体最適を追求し、経営戦略的な視野に立った総合的なシステムの構築が不可欠になります。

各企業においては、ロジスティクスの高度化のために、ICTを活用した可視化によるサプライチェーンマネジメントの構築、企業活動のグローバル展開に伴うネットワークの整備、環境調和型ロジスティクスの構築と普及による循環型社会の実現など、様々な取り組みがなされております。

このようなロジスティクスの高度化への取り組みについて、その優れた実績を広く社会に公表することは、新たな挑戦目標を生み出す刺激となり、当該企業のみならず、広く産業界の関係者にとって極めて有意義なことでもあります。

本年度で第35回を迎える「ロジスティクス大賞」へのご応募をお待ちしております。

応募要領

募集対象

日本国内に事業所を有する企業・機関・団体。

①応募 お申込み 締切日:4月13日(金)

- ・自薦、他薦は問いません。
- ・別紙申込書にご記入のうえ、4月13日(金)までに「会社案内」もしくは「事業案内」とともに事務局宛にご郵送ください。折り返し、「論文作成要領」をお送りいたします。
- ・他薦の場合は、当協会ホームページ (<http://www.logistics.or.jp/propulsion/list/prize.html>) より推薦書をダウンロードしてください。

※論文作成要領はホームページからもダウンロードできます。

※応募資料は返却いたしません。また、外部には一切公開いたしません。

当協会では、個人情報の保護に努めております。

詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<http://www.logistics.or.jp/privacy.html>) をご覧ください。

スケジュール

~4/13	①応募 お申込み 申込書と会社案内をお送りいただきます。
~5/11	②論文の提出 論文執筆要領に従い、論文のご執筆・ご提出をいただきます。
6月下旬	③ノミネート委員会の開催 必要に応じ、委員会の場にお越しいただき、ヒアリングを実施いたします。
7月下旬	④選考委員会の開催 ロジスティクス大賞および特別賞が決定されます。
8月下旬	⑤受賞企業の発表 審査結果は8月下旬までに応募企業へ通知いたします。
10月	⑥ロジスティクス全国大会2018にて表彰式・受賞記念講演 受賞企業にはロジスティクス全国大会にてご講演をお願いいたします。

②論文の提出 締切日:5月11日(金)

下記の要領にて、5月11日(金)までにアブストラクトと論文を事務局宛にご郵送ください。

1. アブストラクト

以下の項目につき、A4サイズ1枚程度に簡潔に記載してください。

- 取り組みを行うに至った背景と目的
- 取り組みの概要
- 取り組みによる成果

2. 論文

論文構成として、以下の内容を記載してください。

(1)目標設定と条件

取り組む前提状況(着眼点)および総合目標の設定。

(2)活動の展開・対策および組織体制

対策内容とそれに伴う活動及び組織体制の整備、革新的技術の応用度。

(3)実績(成果)と経営革新度

実績(定量的な成果)と経営革新への貢献度。

(4)社会的影響と貢献

他企業・事業所などへの応用、社会システムとしての汎用性。

※詳細は事務局よりお送りする「論文作成要領」をご確認ください。

③ノミネート委員会の開催

④選考委員会の開催

審査の方法

以下の評価基準に従って、ロジスティクス大賞ノミネート委員会ならびにロジスティクス大賞選考委員会にて論文審査が行われます。

※ノミネート委員会では、必要に応じ、委員会の場にお越しいただきヒアリングを実施いたします。

創造性 <ul style="list-style-type: none">・着眼点の新しさ・目標の革新性・オリジナリティ(または独創性)	技術革新度 <ul style="list-style-type: none">・マテハン技術・情報技術等の革新的技術の応用度
成果度 <ul style="list-style-type: none">・顧客満足度向上・生産性向上・差別化の実現等の定量的な成果度	社会性 <ul style="list-style-type: none">・他企業や事業所などへの適用可能性(または応用可能性)・社会システムとしての汎用性
経営革新度 <ul style="list-style-type: none">・経営革新への貢献度	努力度 <ul style="list-style-type: none">・持続的な注力度、努力度(内外の関係組織との間の調整等を含む)・人材の能力向上度

⑤受賞企業の発表

審査結果は8月下旬までに応募企業へ通知いたします。

※受賞されなかった企業につきましては、選考委員からのコメントが送付されます。

⑥ロジスティクス全国大会2018にて表彰式・受賞記念講演

表彰

ロジスティクス大賞受賞企業には、賞楯と副賞として賞金を授与いたします。

※受賞企業は、当協会機関誌「ロジスティクスシステム」やホームページの他、専門雑誌および業界紙等で発表いたします。

※受賞企業には、ご講演、見学の受入れをお願いいたします。

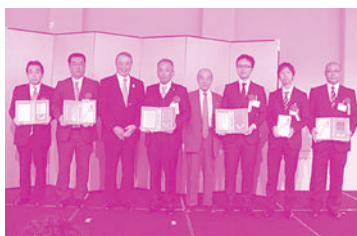
表彰式

表彰式は10月に開催される「ロジスティクス全国大会2018」の席上にて執り行われます。

※受賞企業には、「ロジスティクス全国大会2018」にて、「受賞記念講演」として、取り組みをご発表いただきます。

過去の受賞企業

※企業名は受賞当時



ロジスティクス大賞 表彰式



ロジスティクス大賞楯

2017年度

■ 2017年度ロジスティクス大賞

受賞企業：キュービー株式会社／株式会社キューソー流通システム／株式会社竹中工務店

受賞テーマ：キュービー神戸工場における新たなものづくりの実現～「清流化」によるサプライチェーン効率化への挑戦～

受賞事由：国内市場は人口減少の影響により大幅な売上の増加は難しく、利益を確保していくためには、徹底した効率化による原価低減に取り組む必要があった。そこで本取り組みでは、西日本における基幹工場の建設にあたって、調達・生産・販売・物流の各機能が連携する仕組みを構築し、労働生産性の向上、生産リードタイムの短縮、そして製品在庫の削減を実現した。例えば、製品を充填する時点で行き先配送拠点が事前に決定されており、これによりパレットの際にトラックの積載率を考慮して任意の段数の積み付けが行えるようになっている。また、無人搬送車や秤量の自動化、充填機の高能力化により省人化はもちろんのこと、生産リードタイムを1日まで短縮している。これにより、当日生産したものを当日に約80%、翌日に20%を配送拠点に移動できるようになり、工場における製品在庫の大幅な圧縮を実現している。製造原価の低減はメーカーにおける優先課題であり、他社においても大いに参考になる事例として高く評価された。

■ 2017年度ロジスティクス大賞 技術活用賞

受賞企業：東芝ロジスティクス株式会社

受賞テーマ：ウェアラブルデバイスを活用した飛躍的な倉庫内作業改善

受賞事由：工場等で広く使用されているIE（Industrial Engineering）手法をベースとした定点観測や時間分析等は、限られた時間と限られた被調査者から対象職場の課題を端的に表すには最適な手法といえる。しかし、改善効果の検証を行うには再度の測定が必要であり、また時間が掛かるために日々の業務の中で継続的に改善活動を行うことが困難であった。そこでリストバンド型ウェアラブルデバイスを活用して日々のピッキングにおける作業者の作業時間を測定し、WMS（倉庫管理システム）のデータから求められた標準時間とのギャップから問題となる動作の気付き、そして、その原因分析を行えるシステムを開発した。これにより日々の業務の中で継続的な改善を行っていくだけでなく、作業者個人の動作特性も詳細に把握できることから個人の技量に合わせた研修が可能となり、より大きな生産性の向上が期待できるシステムとなった。以上のように、センシング技術を物流現場の生産性向上にうまく活用した取り組みであることが評価された。

■ 2017年度ロジスティクス大賞 奨励賞

受賞企業：花王ロジスティクス株式会社

受賞テーマ：予測技術を活用した庫内作業最適化による生産性向上

受賞事由：消費者ニーズの多様化に伴うアイテム数の増加と得意先からのバラ出荷要請の増加により、物流拠点における庫内作業の生産性が低下し、保管及び出荷用のスペースが不足する問題が生じていた。そこで、予測技術を用いて出荷頻度が非常に低い商品を出荷作業エリア外に保管し、さらには空間を有効活用するためパレットで平置き保管されている商品の一部を出荷量の予測に基づいてケースフローラックに保管する改善を実施した。これにより、出荷作業エリア面積を17%削減し、さらには予測技術に基づく日々の出荷頻度を考慮した商品配置の見直しからピッキングの生産性を15%以上向上させている。そして作業改善に留まらず、これによって削減されたコストを原資として職場環境や作業者の処遇改善にも取り組んでいる点が、継続的な改善を実現していく優れた取り組みとして評価された。

2016年度

■ 2016年度ロジスティクス大賞

受賞企業：大塚倉庫株式会社

受賞テーマ：物流の「あたりまえ」を壊す「e-伝票」の仕組み～写真とネット予約で労働時間を変える～

受賞事由：近年、トラックドライバー不足が深刻化している。直近の2年間で4万人も減少し、平成27年度は80万人となっている。この労働力不足の原因の一つにトラックドライバーの長時間労働があると言われており、本取組はこの長時間労働の要因である納品時の滞留時間の短縮を目指した取組である。ムダな荷役待ちの削減のためにWeb予約を取り入れた改善のほか、納品伝票と受領印を電子化し、さらに数量の過不足と商品破損が確認できる写真を付与することで、入庫時の検品の表す仕組みを構築した。これにより、滞留時間を大幅に削減し、ドライバーの拘束時間を削減したほか、車両回転数の向上による協力運送事業者の収益改善、さらには電子化によって事務管理費用の削減にも貢献した取組が高く評価された。

■ 2016年度ロジスティクス大賞 協働努力賞

受賞企業：リコーロジスティクス株式会社／三愛ロジスティクス株式会社

受賞テーマ：複数荷主の物流を一元化「共同物流センター」の構築

受賞事由：カメラ用品を取り扱う荷主3社からさらなる物流コストの削減を求められている中、物流センターでは人が集まりにくい状況となりつつあり、人件費の高騰が経営課題となっていた。この課題に対して1社単独での改善には限界があることから、複数の荷主を対象に物流センターの資源である①人材、②スペース、③情報システム、④マテハン設備、⑤車両を共有化し、24時間体制で運営できる共同物流センターを構築した取組である。複数荷主の物流を一元化することにより、保管効率の向上を図るとともに、オリコン用自動倉庫やベルトコンベアなどのマテハン設備を導入することにより、人を歩かせずに、必要な商品が手元に搬送されてくる仕組みを構築した。これにより、人に優しい作業環境を実現しており、生産性を31%も改善するなど大きな成果をもたらしたことが評価された。

■ 2016年度ロジスティクス大賞 技術活用賞

受賞企業：富士物流株式会社

受賞テーマ：RFID技術の利用による庫内作業時間低減の実現～無人棚卸ロボットの開発、現場導入とその効果～

受賞事由：SuicaやPASMOとして普段の生活で活用されるようになってきているRFID技術は、物流分野では費用対効果が十分に得られないとしてその適用拡大が進んでいない。しかし、近年ではICタグの値段が安価になってきたことから、実用化が可能となってきた。本取組はRFID技術を用いた棚卸ロボットにより、煩雑な棚卸業務を無人化した取組である。2008年に「実験機」となる棚卸ロボット1号機を開発した後、2010年に「実用機」として2号機を開発し、そして、2016年に中・軽量棚での物品の棚卸など、活用可能範囲を拡大できるように改良した3号機「愛称：ロジらぶ」の運用を開始した。約1万点を対象とした運用でも需要予測を用いており、近年増加しているピース出荷に対して、当日出荷分のみを事前補充する仕組みを構築し、ピッキング作業の生産性を向上させている。以上のように需要予測を用いて全ての業務が連動した業務改善を実現している点が、優れた取組として評価された。

■ 2016年度ロジスティクス大賞 業務革新賞

受賞企業：花王株式会社

受賞テーマ：予測技術を活用したSCM全体最適の実現

受賞事由：小売店からの全ての注文データをグループ内で保有している強みを活かし、調達から販売に至るあらゆる計画に需要予測を用いた業務改善を実施している。2週間先の需要予測から出荷量の曜日波動やキャンペーンによる波動を予測し、商品の前送りを行うことで輸送用のトラック台数の平準化や荷姿のパレット化などを行っている。これにより、安定したトラック車両の確保と荷役作業の効率化、積載率の向上を実現している。また、庫内のピッキング作業にも需要予測を用いており、近年増加しているピース出荷に対して、当日出荷分のみを事前補充する仕組みを構築し、ピッキング作業の生産性を向上させている。以上のように需要予測を用いて全ての業務が連動した業務改善を実現している点が、優れた取組として評価された。

■ 2016年度ロジスティクス大賞 選考委員会 特別賞

受賞企業：認定特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋／特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会

／認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード

受賞テーマ：環境・福祉・災害救援3NPOの物流センターの共同利用と、すべての物を生かす連携事業の試み～平時と有事を繋ぐ～

受賞事由：本取組は、物流現場で用いられているT11型のレンタルパレットやWMSをNPO法人の業務の中にうまく活用することにより、「物流」を中心として事業の連携を図り、見事にそれぞれの事業の拡大を実現した取組である。例えば、被災地支援を目的とするNPO法人にとって、支援終了後に在庫として残った食品の廃棄が問題となっていた。これを生活困窮者への食糧配布を目的とするNPO法人に引き継ぐことで、被災地支援時に従来断っていたパレットによる救援物資の大口受入を可能とするとともに、支援終了後の廃棄の削減を実現している。この「物流」を中心とした事業の連携は、現在、国内にある50,965（平成28年5月31日現在）のNPO法人にとっても非常に参考となる取組といえ、社会全体の利益に資する取組として高く評価された。また、この取組は物流企業とNPO法人との連携の可能性について示唆を与えるものといえる。